

「ファクトブック 2023 における生体腎移植の集計数の訂正」

ファクトブック 2023 に間違いが見つかりましたので、訂正してお詫び申し上げます。

ファクトブック 2023 の腎移植は雑誌「移植」の「腎移植臨床登録集計報告(2023) 2022 年実施症例の集計報告と追跡調査結果」のデータを基に作成しておりますが、判明した重複症例 3 名の修正がファクトブック 2023 では出来ていなかったのが原因です。早急に HP のファクトブック 2023 は修正版をアップしますが取り急ぎ、訂正箇所をお知らせします。

訂正箇所は以下の通りです（図 1～3・表 1,2 を含む）。

P37

3. 年間移植件数（表 1）

- 2022 年の国内での腎臓移植件数を表 1 に示します。2022 年の 1 年間で、生体腎移植 ~~1,587~~**1,584** 例（88.9%）、献腎移植 198 例（11.1%）、合計 ~~1,785~~**1,782** 例が施行されています（日本移植学会、日本臨床腎移植学会統計報告より）。献腎移植は、心停止下 28 例（1.6%）、脳死下 170 例（9.5%）の提供でした。2021 年の移植件数、生体腎 1,649 例、献腎 125 例、計 1,774 例と比較すると、それぞれ、生体腎移植 ~~6265~~ 例の減少、献腎移植 73 例の増加で、合計では ~~118~~ 例増加しました。献腎移植のうち、心停止下提供は 9 例、脳死下提供は 64 例増加しました。

表 1 2022 年の腎移植実施症例数

腎移植件数		
生体腎	1,587 1,584	(88.9%)
献腎（心停止下）	28	(1.6%)
献腎（脳死下）	170	(9.5%)
計	1,785 1,782	(100.0%)

4. 移植患者の性別・年齢、生体腎ドナーの関係（図 1, 2, 3）

- 2023 年 7 月 21 日時点での 2022 年腎移植実施症例登録情報（詳細登録）にデータ入力された症例と日本臓器移植ネットワークのデータをあわせた ~~1,689~~**1,680** 例での集計結果を示します。
- 腎移植レシピエントの性別は、生体腎では男性 ~~947~~**945** 例(63.5%)、女性 ~~544~~**543** 例(36.5%)、献腎移植では男性 127 例(64.1%)、女性 71 例(35.9%)といずれも男性が多くなっています。

P38

- 腎移植レシピエントの平均年齢は、生体腎が 48.9 ± 14.9 歳、献腎が 48.0 ± 17.2 歳で、生体腎が献腎のレシピエント年齢を上回りました。これまでは献腎レシピエントが生体腎レシピエントに比較して高齢な傾向がありましたが、近年はほぼ同年齢となりました。生体腎移植と献腎移植をあわせると 40 歳代と 50 歳代が多くを占め、それぞれ 396 例、~~448~~**447** 例と約 50%を占めています。10 歳未満への腎移植数は生体腎移植が 17 例、献腎移植は 11 例で、合計では 28 例（1.7%）と非常に少ないのが現状です。
- 生体腎移植ドナーのレシピエントとの関係は入力があったドナー~~1,401~~**1,488** 例中、非血縁（配偶者）が 645 例（43.3%）と最も多く、親が 452 例（~~30.3~~**30.4**%）、兄弟・姉妹が ~~136~~**135** 例（~~11.1~~**19.1**%）と続きました。以前、ドナーは親が多かったですが近年は配偶者がドナーとなる腎移植が多くなっています。

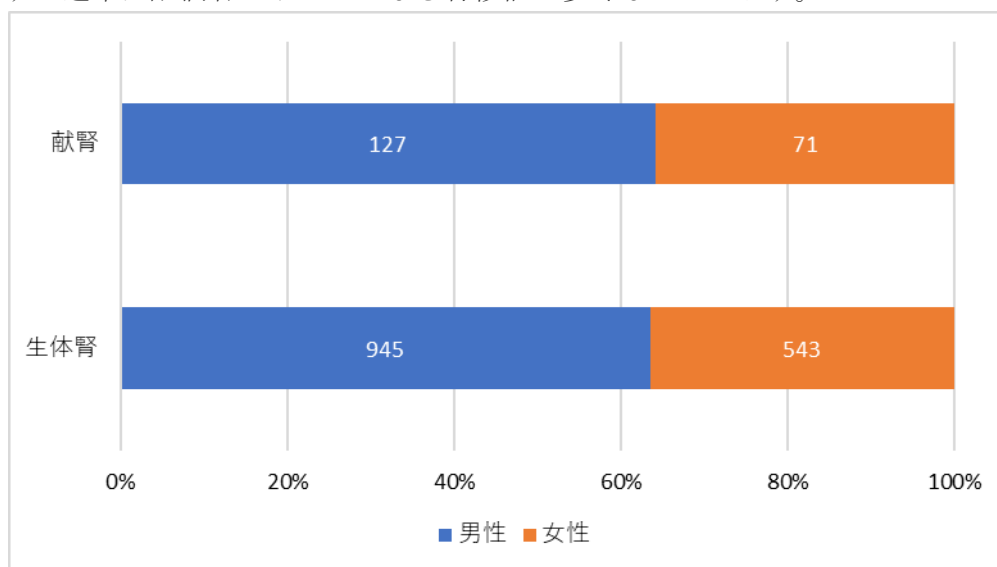


図 1 2022 年症例 レシピエントの性別

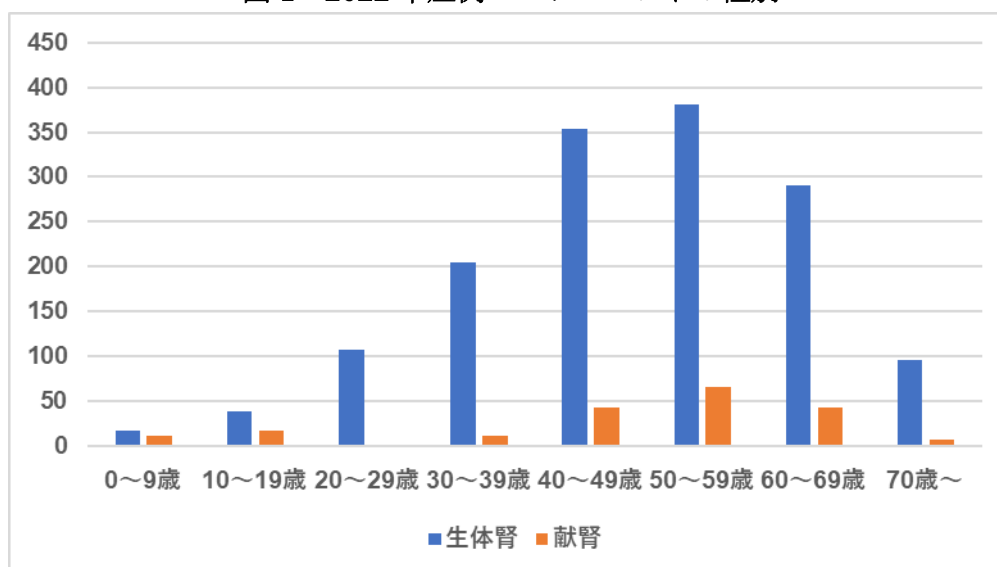


図 2 2022 年症例 レシピエントの年齢

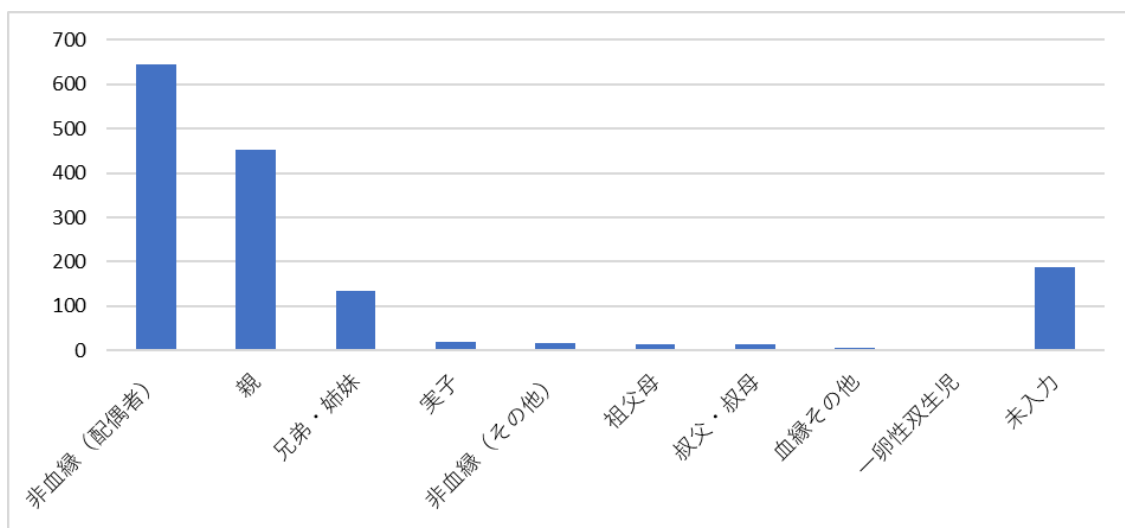


図3 2022年症例 生体腎移植ドナーのレシピエントとの関係

5. 腎移植数の推移（図4、表2）

- 2022年の腎移植数は~~1,785~~**1,782**例で、前年より~~129~~例増加しています。1989年より4～5年間減少傾向にあった総移植患者数は次第に増加傾向にあり、2006年には年間1,000例を超え、2019年に初めて2,000例を超えました。移植数の増加は、献腎移植の緩徐な増加もありますが、最大の要因は生体腎移植数の増加です。生体腎移植数が増加した原因として、夫婦間など非血縁間の移植、血液型不適合移植、高齢者の移植が増加していることがあげられます。さらに、献腎移植を希望し腎移植登録しているにもかかわらず提供者が少ないために、生体腎移植に踏み切る症例もあることが予測されました。2020年からは一部の都道府県を除いて各施設とも新型コロナウイルス感染症の影響を受け移植数が減少していました。特に2020年、2021年は献腎移植の減少が顕著でしたが2022年は増加に転じています。ただ未だに移植総数はコロナウイルス感染症流行前の2019年と比較すると少なく、生体腎が~~240~~**243**例の減少、心停止下献腎が26例の減少、脳死下献腎が6例の減少でした。

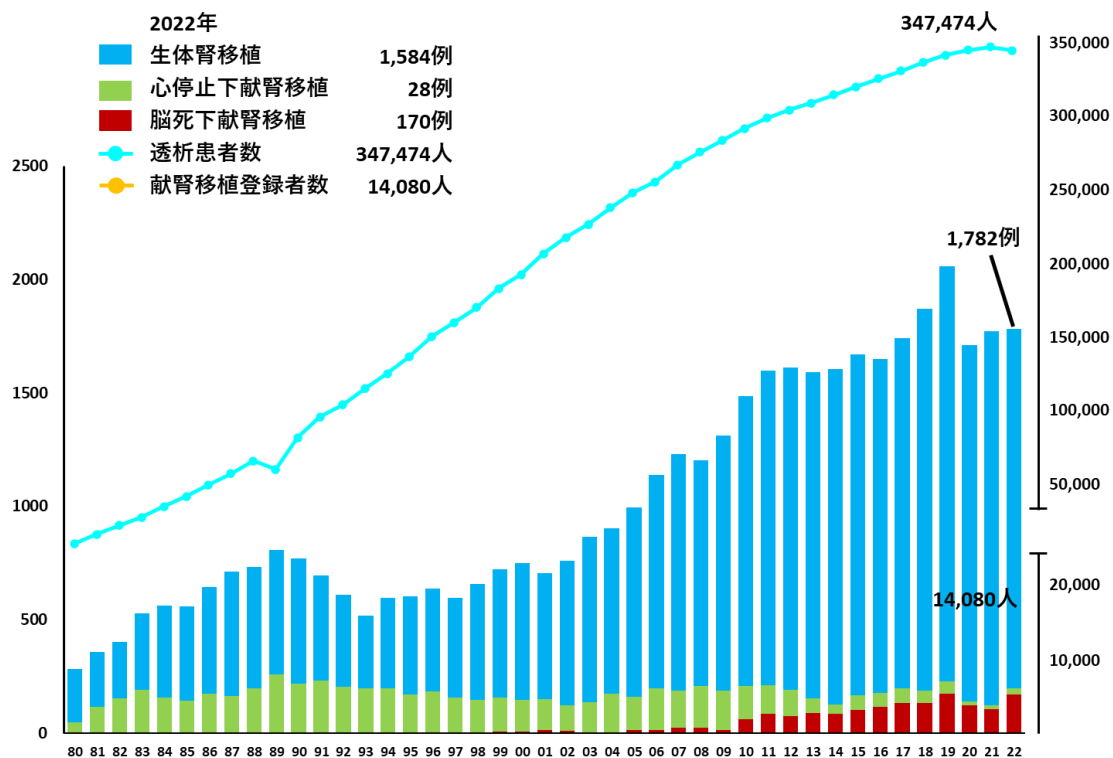


図 4 透析患者数・献腎待機患者数・腎移植数の推移

表 2 年次別腎移植患者数

年	～71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88
生体腎移植	175	37	82	117	131	133	170	211	176	236	242	249	339	405	417	470	549	534
心停止下腎移植	41	4	4	8	4	22	27	36	51	49	118	154	191	159	143	174	163	198
計	216	41	86	125	135	155	197	247	227	285	360	403	530	564	560	644	712	732

年	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	00	01	02	03	04	05	06
生体腎移植	547	551	463	402	323	399	432	453	437	510	566	603	554	637	728	731	835	941
心停止下腎移植	261	220	234	207	197	199	172	186	159	149	150	139	135	112	134	167	144	181
脳死下腎移植												8	7	16	10	4	6	16
計	808	771	697	609	520	598	604	639	596	659	724	749	705	759	866	904	995	1138

年	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
生体腎移植	1043	994	1122	1277	1386	1420	1438	1479	1503	1471	1544	1683	1827	1570	1648	1584
心停止下腎移植	163	184	175	146	126	116	67	42	63	61	65	55	54	17	19	28
脳死下腎移植	24	26	14	62	86	77	88	85	104	116	133	133	176	124	106	170
計	1230	1204	1311	1485	1598	1613	1593	1606	1670	1648	1742	1871	2057	1711	1773	1782

P46

12. 生体腎移植ドナー（表 5、6）

- 2009 年よりレシピエントのみでなく生体腎ドナーに関する登録が開始され、追跡調査も始まりました。2009 年から ~~2020~~2021 年までに施行された生体腎移植 ~~17,720~~18,922 例を調査しました。移植後 3 か月、1 年 ～ 10 年の 1 年毎の時点で各々 web 登録に入力済であった症例を対象とした調査報告があり、その解析結果を

報告します。ドナー腎採取術後、3 か月時点において 3 名、1 年で 14 名、2 年で 8 名、3 年で 8 名、4 年で 15 名、5 年で 10 名、6 年で 11 名、7 年で 12 名、8 年で 10 名、9 年で 7 名、10 年で 4 名の死亡例が報告されています。また来院中止や転院のため予後不明例が移植後 1 年時点で 683 例(6.4%)と少なからず認められており、ドナー管理の重要性が示唆されました。